

## コリント人への手紙— 14章13-25 節 知性を尽くして礼拝する

今週も引き続きコリントの信徒への手紙—12-14章と靈的な賜物をめぐる問題を取り上げます。今日はコリントの信徒への手紙—14章13-25節を見ていきます。この聖句は、前回までの公同礼拝での預言と異言の用い方についての議論の聖書箇所続きです。これまで、パウロが指摘した主要な点は預言が神の御言葉を理解できる言葉で他の人に語り彼らを教会として築き上げるので、公同礼拝にはより好ましい事です。今日の聖句も実際その考えを継続し、もうすでにお伝えした多くの考え方を繰り返すこともできましたが、この聖句が礼拝に関して語っていることに特別に焦点を絞りたいと思います。まず、この聖書箇所の前半、13-18節、を読んで行きましょう。**コリント人への手紙 第一 14章 13-25節 13** **そういうわけで、異言で語る人は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。 14** **もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。 15** **それでは、どうすればよいのでしょうか。私は霊で祈り、知性でも祈りましょう。霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。 16** **そうでないと、あなたが霊において賛美しても、初心者の席に着いている人は、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。あなたが言っていることが分からないのですから。 17** **あなたが感謝するのはけっこうですが、そのことでほかの人が育てられるわけではありません。 18** **私は、あなたがたのだれよりも多くの異言で語っていることを、神に感謝しています。 19** **しかし教会では、異言で一万のことばを語るよりむしろ、ほかの人たちにも教えるために、私の知性で五つのことばを語りたいと思います。** 知性に重点を置いていることに注目してください。これがこの聖句の鍵となります。もちろん、パウロはまだ異言を預言と比較し、この異言の賜物について語っています。彼は、もしあなたに異言の賜物が与えられているならば、その解き明かしができるようにも神に祈る必要があると言っています。これは、その前の11-12節の考えと、**そういうわけで** という言葉で繋がっています。 **11** **それで、もし私がそのことばの意味を知らなければ、私はそれを話す人にとって外国人であり、それを話す人も私には外国人となるでしょう。 12** **同じようにあなたがたも、御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会を成長させるために、それが豊かに与えられるように求めなさい。**

異言を語る人が解き明かすことができるように祈る理由は、語られていることを理解する能力の欠如が教会の人たちを彼らの信仰にあって建て上げるどころか疎外感を抱かせるからです。彼はそこから 続けて語ります。彼が異言を語ると、彼は知性を使って靈的賜物を用いていません。霊とまこととで礼拝していないのです。これが礼拝に関しての主要点です。私たちは単に感情に流されて礼拝するのではなく、知性で神に関する適切な知識を得て、真理による礼拝をするのです。多くのクリスチャンは礼拝は感情の表現する事と信じているようです。現代の礼拝式で異言の賜物のほとんどはそのようなことです。また、私たちが歌う音楽が礼拝であると考えの人たちも見られます。ワーシップ・ミュージックと呼ばれるクリスチャン音楽のジャンルがあります。人気を博すヒルソング、ベテル、エレベーションなどのワーシップ・バンドがその考え方を養っています。お気づきかもしれませんが、私は私たちの音楽チームをワーシップ・チームと呼ばないようにしています。何回かはそう呼んでしまったと思いますが、音楽担当の皆さんをワーシップ・チームと呼ぶことは、礼拝は音楽だけと思わせてしまうからです。礼拝は私たちがこの儀式において行う全てです。そして、その考えをさらに広げると、それは私たちがどのように人生を生活しているかに行き着きます。 **ローマ人への手紙 12章 7節**は私たちにこう言っています。 **1** **ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。**

興味深いのは、パウロが実際音楽を、さらに祈りと感謝をも議論に持ち込んでいることです。そして、それら全てにおいて、霊においてのみで行わず、私たちの知性も行為に加わっていただけないのです。ここで聖書が霊について語る時、その考えはギリシャ人哲学者プラトンから来ており、本当のひらめきや感情に知性は加わっておらず、神からの導きがあなたをコントロールすると言っています。その二元論的な人の見方はパウロの考えと神が私たちを見られる全人的な見方と相反しています。この見方はキリスト教よりも仏教の無の境地により共通点がありま

す。私たちの推論能力を私たちの感情から分離させることは、神が意図される私たちの生き方や礼拝の仕方ではありません。御霊に導かれることは心を無にして、神が私たちに何かをすることを望まれることをただ感じることはありません。それで、これは私たちの公同礼拝とどういう関係があるのでしょうか。15節は言います。 **霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。** 私たちに感情的な昂ぶりによって礼拝を感じさせる感情的要素を用いている歌を歌うことができます。それ自体は全く問題ありませんし、実際、私たちの礼拝も感情が込められているべきです。歌うことによって感情的に心を打つ歌も数多くありますが、私たちの感情を利用する目的で実際異端を含めたり意味のない繰り返しをします。ですから、歌うときであっても、知性を使って私たちの言葉と神を中心とする教理を歌うのです。パウロは16節で礼拝で知性を使うことがなぜ重要なのかその理由を与えています。 **そうでないと、あなたが霊において賛美しても、初心者の席に着いている人は、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。あなたが言っていることが分からないのですから。** 目的は彼らが共に礼拝に参加して語られた言葉にアーメンと言えることです。つまり、彼らは語られたことの意味があるということです。私たちは、アーメンという言葉を考えずに使っていますが、その言葉の意味は、然り、まことにそうです、と同意することです。ですから、私たちは、それがコリント教会の礼拝で語られた預言であろうと、YIBCの私たちの礼拝での歌か、説教か、証であろうと、語られたことが何であるかよく考慮することができる必要があります。パウロは教会員以外の人たち、たとえ未信者の人たちであっても、特に彼らのことを考えているのです。目的はそれらの人々がメッセージ、特に福音のメッセージ、を理解して、信仰によって信じ、アーメンと応答することです。異言は理解される言語が用いられていないのでこれを達成しません。それでも、パウロは18節で言います。 **18 私は、あなたがたのだれよりも多くの異言で語っていることを、神に感謝しています。**

それでは、公の礼拝でなければ、パウロはどこで異言を語っているのでしょうか。これは私に完全なcessationist、使徒の時代の後に異言は廃れたと信じる人、になることを阻む鍵となる聖書箇所の一つです。可能性として、パウロは個人的な場面で定期的に異言を語っていたようです。これは今日の多くの人たちが経験している彼らと神の間の公同礼拝ではなく個人的な祈りの中で用いられている個人的な祈りの言葉です。パウロはこのように異言の賜物を用いていたようです。しかし、彼は19節でこう明らかにしています。 **しかし教会では、異言で一萬のことばを語るよりむしろ、ほかの人たちにも教えるために、私の知性で五つのことばを語りたいたいと思います。**

パウロがとても明快であったのは、教会でのコミュニケーションは語られても、歌われても、説教されても、神について意識的に、思慮深く、計画されて教える目的がなければなりません。これは教会を築き上げると言う究極的な目的に沿っています。他の人を霊的に高める事は成熟を求めさせる事です。教会が考え方において成熟するように励ますためにパウロが訴えている彼らの知性を礼拝において使う事です。20-25節を見てください。 **20 兄弟たち、考え方において子どもになってはいけません。悪事においては幼子でありなさい。けれども、考え方においては大人になりなさい。** 目的は常に教会を彼らの信仰において成長させる事です。成熟の一部は子供のような考え方をしない事です。言い換えれば、霊的な賜物について、彼は預言の言葉を語ることを求める代わりに、異言を語ることを求めるのは未熟な考え方を露呈します。もちろん、他にも見落としやすいことがもう一つあると言っています。この長い聖句の中のたった四つの小さな言葉です。私たちが幼子の理解のままにすべきな領域が一つだけあります。 **悪事においては幼子でありなさい。** 罪の性質と私たちの社会でこれほど罪が蔓延しているため、あまりにも多くのクリスチャンは性的逸脱のことはよく知っていますが、聖書の聖句を使って同性愛行為がなぜ罪なのかを論証することが出来ません。私たちは殺人や暴力行為などをテレビでよく見ますが、神をどのように愛すべきか、隣人を私たち自身のように愛するかを考えるためにほんの少しだけしか時間を使いません。私たちの多くは、サタンが私たちが過去に犯してしまった過ちや、参加してしまったことを思い起こさせ罪悪感で苦しめるために用いる罠に嵌り、忘れようと必死にもがいています。ここで、神の御言葉の真理に根差した成熟した信仰があればそのような記憶と過去の自覚が罪人である私たちへの神の恵と憐れみの今の現実によって置き換えられて乗り越えられます。ヘブル人への手紙8章12節で、神は私たちに保証されます。 **ヘブル人への手紙 8章**

**12節 12 わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。** 私たちのように願う以上に罪の自覚が大きく、心に重くのしかかっている者にとって、この約束は計り知れぬ恵と癒しをもたらします。真実は、私たちが沢山の罪を犯していようと、ほんの少ししか犯していないとしても、神の眼には私たち全員が靈的に囚われの身にあり、私たちの罪のうちにもどうしようもない状態で死んでいます。 **ローマ人への手紙 3章23節 23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、** 私たちの罪の自覚は悔い改めて、主として救い主としてイエス・キリストへ向かう時に経験する神の恵みをさらに喜ばしいものにします。私たちの罪深さと神の恵み両方の認識がより高まるにつれ、私たちの靈的成長が表されます。そして、私たちの靈的賜物が用いられ互いに建て上げられます。ここでパウロが主張していることはどのように私たちの賜物を一番良い形で礼拝に用いるかを考えるために私たちの知性を尽くすかは私たちの靈的成熟度を表すということです。そして、この異言の賜物に関してパウロが述べていることを知性を尽くして考えていなければさっぱり理解できない議論で締めくくります。21-25 節のこの議論はとても難解です。このセクションの最後の聖句を読みましょう。

**21 律法にこう書かれています。「『わたしは、異国の舌で、異なる唇でこの民に語る。それでも彼らは、わたしの言うことを聞こうとはしない』と主は言われる。」 22 それで異言は、信じている者たちのためではなく、信じていない者たちのためのしるしであり、預言は、信じていない者たちのためではなく、信じている者たちのためのしるしです。 23 ですから、教会全体が一緒に集まって、皆が異言で語るなら、初心の人か信じていない人が入って来たとき、あなたがたは気が変になっていると言われることにならないでしょうか。 24 しかし、皆が預言をするなら、信じていない人や初心の人が入って来たとき、その人は皆に誤りを指摘され、皆に問いただされ、 25 心の秘密があらわにされます。こうして、「神が確かにあなたがたの中におられる」と言い、ひれ伏して神を拝むでしょう。**

パウロは礼拝での異言の語りに対する最後の反対論を旧約聖書に戻り展開します。彼の最初の引用はイザヤ書28章11-12節からです。 **イザヤ書 28章11-12節 11 まことに主は、もつれた舌で、異国のことばでこの民に語られる。 12 主は彼らに、「ここに憩いがある。疲れた者を憩わせよ。ここに休息がある」と言われたのに、彼らは聞こうとしなかった。** この背景は、神はイスラエルの民に何度も繰り返し真の憩いを見つける方法を警告してきましたが、彼らは神の御声を聞こうとしませんでした。それで、神は彼らが理解できない言葉を話す異邦人を用いられイスラエルの民を罰する裁きをもたらされました。パウロは22節で、神は知らない言葉を用いられ神のメッセージを分かりにくくされ、民が神の裁きの下におかれ、未信者が神を理解できないよう遮るしるしとされたと言う結論を導き出します。このしるしは彼らを未信者のままにしておきます。その一方、預言は異なります。もうすでに実証されているように、預言は信者に語りかけ、同時に未信者にも明快な言葉で語りかけています。

**しかし、皆が預言をするなら、信じていない人や初心の人が入って来たとき、その人は皆に誤りを指摘され、皆に問いただされ、 25 心の秘密があらわにされます。こうして、「神が確かにあなたがたの中におられる」と言い、ひれ伏して神を拝むでしょう。**

24 節が言っています。もし未信者が集まりに参加すると、全員が預言を語っているので、彼は神の御言葉を理解し、自分の罪に気づき、神に向き赦しを乞うでしょう。ここでも、彼は旧約聖書を引用して彼の見解を締めくくります。彼はイザヤ書 45章 14節で、クシュから来た人々とセバ人について語っている、 **イザヤ書 45章14節 14 主はこう言われる。「エジプトの産物とクシュの商品、それに背の高いセバ人も、あなたのところにやって来て、あなたのものとなる。彼らはあなたの後に従い、鎖につながれてやって来る。そして、あなたにひれ伏して、あなたに祈る。『神はただあなたのところにだけおられ、ほかにはなく、ほかには神々はいない』と。」** 又はゼカリヤ書8章23節を引用しています。

**ゼカリヤ書 8章23節<sup>23</sup> 万軍の主はこう言われる。「その日には、外国語を話すあらゆる民のうち十人が、一人のユダヤ人の裾を固くつかんで言う。『私たちもあなたがたと一緒に行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたから。』** 思い出していただきたいのは、教

会を成長させることが目標の全てである事です。教会の成長は伝道から始まります。そしてちょうど預言が信者を成長させるのにより良いように、未信者にとってもどう福音を聞き、それに応答するかなのです。神が望まれる通りに彼らは25節の行いで応答します。 **25 心の秘密があらわにされます。**つまり彼らは聖なる神の御前で彼らの罪を知り理解するのです。「**神が確かにあなたをたの中におられる**」と言い、ひれ伏して神を拝むでしょう。

真の伝道は私たちが人々の感情を操って、讚美歌あるがままのわれの8節または超自然的なカリスマ的な体験で感動させて福音に応答させて起こるのではありません。真の伝道は私たちがはっきりと福音の真理と完全で力ある神の御言葉を聞いた人たち全員が自身の知性で考え、彼らの心またはここでのパウロの言葉を使えば精神で受け入れた時起こります。

この聖句から私たちは何を心得るべきでしょうか。第一に、異言の賜物は断罪されません。あなたが異言の賜物を与えられていると信じているならば、この説教を聞き、この聖句を読んでもその賜物を非難していると思わないでください。しかし、はっきりしていることは異言の主な使い道は神との個人的な交わりと祈りの時であり、公に礼拝する時ではありません。第二に、預言の賜物が新約聖書で用いられたように今日も使われてはいませんが、神の御言葉を明快に理解しやすい方法で忠実に教え、説教することによってその賜物のある側面を行使しているのです。第三は、その教えは心と知性を尽くして神の御言葉で啓示されている神御自身をより理解させるべきです。そして、最後に私たちが礼拝で用いる何であろうと人々に自ら進んで神が誰であるのか、そして彼らの神との関係を塾考させるよう指し示していることです。礼拝は単に感情的に昂らせることだけではありません。神の御前で私たちの言葉、思い、従順の行いによって感謝と真の礼拝を献げ、神について得た知識に応答するように心を注ぐことです。私たちは神に服従し、神を崇めます。なぜならば、神が誰であるかの真理が私たちの心と精神を、人生を変えるように貫いたからです。この真理と心からの賛美と感謝の組み合わせを私たちは最後の讚美歌の歌詞に見ます。目を上げて主の御顔をまさにそこには私たちが互いに与える励ましを表す感情があります。

**あなたの目を主イエスに向け その素晴らしい御顔を見るとき 地上のものは不思議と薄れていきます** その感情溢れる嘆願は二番で歌う神の御言葉から知るイエスの真実が基となっています。

**主の栄光と恵みが輝く中で あなたの目を丘に向けてください**      **そこは、正義と憐れみが合う所** **そこで、神の子が私たちのために命を 捧げ** **私たちの償う事のできない罪は消された**

私の祈りは今日ここにいらっしゃるみなさん全員がイエス・キリストがあなたのために死なれ、その犠牲があなたの罪の代償を完全に償ったことをこの讚美歌を真摯に歌い知性で理解し、精神と心で信じる事です。祈りましょう。

## 1 Corinthians 14:13-25 Engaging Our Minds in Worship

We are continuing our walk through 1 Corinthians 12-14 and the issues surrounding spiritual gifts. Today we will be looking at 1 Corinthians 14:13-25. This passage today is a continuation of the previous verses discussing the use of prophecy and tongues in public worship. So far the primary point Paul has made is that Prophecy is more desirable for public worship because it speaks the Word of God to other people in understandable language that builds them up as the church. Our passage today really continues that thought, and I could repeat a lot of the ideas that have already been said; but instead, I want to focus specifically on what this passage is saying regarding our worship. Let's begin by reading the first half of the passage, verses 13-19.

13 Therefore, one who speaks in a tongue should pray that he may interpret. 14 For if I pray in a tongue, my spirit prays but my mind is unfruitful. 15 What am I to do? I will pray with my spirit, but I will pray with my mind also; I will sing praise with my spirit, but I will sing with my mind also. 16 Otherwise, if you give thanks with your spirit, how can anyone in the position of an outsider say "Amen" to your thanksgiving when he does not know what you are saying? 17 For you may be giving thanks well enough, but the other person is not being built up. 18 I thank God that I speak in tongues more than all of you. 19 Nevertheless, in church I would rather speak five words with my mind in order to instruct others, than ten thousand words in a tongue.

Notice the focus here on the mind. This is the key to this passage. Of course, he is still comparing tongues with prophecy, and talking about this gift of tongues. He is saying that if you have the gift of tongues, then you need to also pray that God will give you the interpretation. This is tied to the last thought in verses 11-12 by the word, "Therefore." Verses 11-12 said, 11 but if I do not know the meaning of the language, I will be a foreigner to the speaker and the speaker a foreigner to me. 12 So with yourselves, since you are eager for manifestations of the Spirit, strive to excel in building up the church. The reason the one who speaks in tongues should pray for an interpretation is because they should care that the lack of ability to understand what it is being said is alienating others in the church, rather than building them up in their faith. He goes on from that point to say that if he speaks in tongues, he is not engaging his mind in using that spiritual gift and engaging in that act of worship. This is the main point about worship that we see **We worship with our minds, not simply our emotions.** Many Christians seem to believe that worship is about expressing emotions. We see that with most of what passes for the gift of tongues in modern worship services. We also see it in the idea that worship is the music we sing. There is an entire genre of Christian music just called worship music, and the popularity of worship bands like Hillsong, Bethel, and Elevation in many ways feed that idea. You may have noticed I try to not call our musicians a worship team. I'm sure I have a couple of times, but to call the musicians a worship team feeds the idea that worship is just music. Worship is everything we do in the service, and to expand that further, it's how we live our lives. **Romans 12:1** tells us this when it says, **I appeal to you therefore, brothers, by the mercies of God, to present your bodies as a living sacrifice, holy and acceptable to God, which is your spiritual worship.**

It's interesting that Paul actually brings music into the discussion, as well as prayer and thanksgiving, and says about all of them that they are not to be done just in spirit but with our minds engaged in the activity. When the Bible talks here about spirit, it is from the Greek philosopher Plato's idea that the mind is unengaged in true inspiration and

emotion and divine guidance just take over and control you. But that dualistic view of humans goes against what Paul has in mind and how God sees us which is holistic. This view has more in common with Buddhism with its concept of mental emptiness than Christianity. Separating our reasoning ability from our emotions is not how God intends us to live or to worship. Being led by the Spirit is not to shut off our minds and to simply “feel” that God wants us to do something. So, what does this all have to do with our corporate worship? Verse 15 says, **I will sing praise with my spirit, but I will sing with my mind also.** We could sing songs that use emotional elements to build up an emotional sense of “worship.” And I would say that there is absolutely nothing wrong, and in fact our worship should include emotion. But there are many songs that are very moving in an emotional sense to sing, but contain actual heresy or simply mindless repetition for the purpose of drawing on our emotions. So even when we sing, we engage our minds and sing with doctrinal truth about God as the focus of our words and thoughts.

Paul gives us the reason why engaging our minds in worship is so important in verse 16. **if you give thanks with your spirit, how can anyone in the position of an outsider say “Amen” to your thanksgiving when he does not know what you are saying?** The goal is to have those joining in worship be able to say Amen to the words that are said. That means there is understanding of what is being said. We use the word, “Amen” sometimes without thinking, but the word means, “I agree with that.” So, we need to be able to think and consider what is being said, whether it is prophecy that is spoken in the worship service in the Corinthian church or songs or preaching or testimonies that happen in our services at YIBC. And Paul is specifically thinking of those who come in who are not members of the church and possibly even unsaved. The goal is for those people to understand the message, especially the gospel message and respond in faith with “I believe,” Amen. Tongues does not accomplish this since understandable language is not being used. But still Paul says in verse 18, **I thank God that I speak in tongues more than all of you.** So, where is he speaking in tongues if not in public worship? This is one of the key verses that keeps me from being a completely convinced cessationist. It would seem that it was likely in private setting that Paul regularly spoke in tongues. This describes what many today also have personal experience with, that tongues is used as a private prayer language between them and God in private devotion, but not in public worship. It seems that Paul experienced using the gift of tongues in this way. But in verse 19 he makes clear... **19 Nevertheless, in church I would rather speak five words with my mind in order to instruct others, than ten thousand words in a tongue...** Paul was very clear that communication in church in any way, spoken, sung, or preached must be intentionally, thoughtfully planned for the purpose of teaching about God. This goes along with the ultimate purpose for gifts – to build up the church.

To build up others is to seek their maturity, and it is the use of our minds in worship that Paul appeals to, in order to encourage the church to be mature in their thinking. Look at verses 20-25. **20 Brothers, do not be children in your thinking. Be infants in evil, but in your thinking be mature.** The goal is always building up the church to a maturity in their faith. Part of maturity is not to think like children. In other words, as it pertains to spiritual gifts, he is saying that seeking for emotional gifts that put the focus on you with nothing for the others who are around you, is a sign of immaturity. Or to be more blunt, seeking to speak in tongues instead of seeking to speak words of prophecy shows immature thinking. Of course there is one other thing he says that it would be easy to overlook, because it is just four little words in this longer passage. There is one area

where we are supposed to infants in our understanding – **Be infants in evil...** Because of the nature of sin and how accessible it is in our society, too many Christians know much about sexual deviance, but cannot make the case from Scripture as to why homosexual actions are sinful. We watch TV shows that show lots of ways and acts of murder and violence, but we spend little time thinking about how we can love God and love our neighbor as ourself. I'm sure many of us struggle to forget things we've done and participated in in the past that Satan uses against us. That is also where a mature faith that is grounded in the truth of the Word of God can overcome those memories and that knowledge as the past is replaced with the present reality of God's grace and mercy to us as sinners.

In [Hebrews 8:12](#), God assures us “...I will be merciful toward their iniquities, and I will remember their sins no more.” For those with more knowledge than we want of sin that continues to push its way into our thoughts, this promise carries a lot of grace and healing. The truth is that whether we have a lot of experience with sin or just a little, in God's eyes we are all spiritually trapped and hopelessly dead in our sin. [Romans 3:23](#) says, **23 for all have sinned and fall short of the glory of God...** But knowledge of our sin makes the grace of God that we experience when we turn to Jesus Christ as our Lord and Savior, that much sweeter. The more we grow in that knowledge of both our sin and God's grace shows our maturity, and that we are building each other through our gifts. And so the point Paul is making here is that **how well we engage our minds in considering how best to use our gifts in worship will show the level of our Spiritual maturity.** And then, he closes by making an argument that does not make a lot of sense unless they are fully engaged with their minds in considering what he is saying regarding this gift of tongues. And this argument in verses 21-25 is a very difficult argument to follow.

Let's read the final verses of this section. **21 In the Law it is written, “By people of strange tongues and by the lips of foreigners will I speak to this people, and even then they will not listen to me, says the Lord.” 22 Thus tongues are a sign not for believers but for unbelievers, while prophecy is a sign not for unbelievers but for believers. 23 If, therefore, the whole church comes together and all speak in tongues, and outsiders or unbelievers enter, will they not say that you are out of your minds? 24 But if all prophesy, and an unbeliever or outsider enters, he is convicted by all, he is called to account by all, 25 the secrets of his heart are disclosed, and so, falling on his face, he will worship God and declare that God is really among you.** Paul is making a final argument against the regular use of tongues in worship by going back to the Old Testament. He first quotes from [Isaiah 14:21](#). **For by people of strange lips and with a foreign tongue the Lord will speak to this people, 12 to whom he has said, “This is rest; give rest to the weary; and this is repose”; yet they would not hear.** The context was that God had warned the people of Israel over and over the way to find true rest, but they refused to listen to God's voice. So, God brought judgement from foreigners whose language they did not understand to punish his people Israel. Paul then draws the conclusion in verse 22 that unknown languages were used by God to obscure God's message and keep people under God's judgement, so they become a sign for unbelievers to keep them from understanding God. But this sign keeps them as unbelievers. Prophecy on the other hand is different. It speaks to believers, as has already been established, but also to unbelievers in clear language. So, verse 24 says, if an unbeliever comes into a meeting and everyone is prophesying, he will understand

God's Word and come under conviction of his sins and turn to God for forgiveness. That's where we see him reference the Old Testament again as he ends his thought. He is either referencing [Isaiah 45:14](#) that says about [Egyptians](#) and people from [Cush](#) and [Sabeans](#) ... [They will plead with you, saying: 'Surely God is in you, and there is no other, no god besides him.'](#) Or he is referencing [Zechariah 8:23](#) ...[In those days ten men from the nations of every tongue shall take hold of the robe of a Jew, saying, 'Let us go with you, for we have heard that God is with you.'](#)

Remember the whole goal is building up the church. Building up the church begins with evangelism. And just as prophecy is better for building up believers, it is also how unbelievers will hear and respond to the gospel. And as God wills, they respond with the action of verse 25. [25 the secrets of his heart are disclosed](#), meaning they see and understand their sin before a Holy God... [and so, falling on his face, he will worship God and declare that God is really among you](#). True evangelism does not occur because we manipulate people's emotions to respond to the gospel on the 8<sup>th</sup> verse of "Just as I am" or wow them with supernatural Charismatic experiences. True evangelism happens when we clearly proclaim the truth of the gospel and the complete and powerful word of God in ways that everyone can think about with their minds and accept in their hearts or their spirit to use Paul's language here.

So, what should we take away from this passage? First, that there is no condemnation of the gift of tongues. If you believe that you have the gift of tongues, I don't believe that you should hear this sermon or read this passage in a way to condemn that gift. However, it does seem clear that primary use of tongues would be in private communion and prayer with God, not publicly in worship. Secondly, while the gift of prophecy in the way it was practiced in the New Testament is likely not active today, we practice certain aspects of that gift as we faithfully teach and preach the Word of God in clear and understandable ways. Third, that teaching should engage the mind and intellect in better understanding who God is as he reveals himself in the Word of God. And so finally everything is pointing to the fact that whatever we use in worship should cause people to actively consider who God is and their relationship to him. Worship is not about getting worked up emotionally. It is about responding to the knowledge we gain about God by pouring out our hearts before him in Thanksgiving and true worship by our words, our thoughts and our actions of obedience. We obey him, we worship him, because the truth of who he is has penetrated our hearts, our spirits in a life changing way. This combination of truth and heart felt praise and thanksgiving is what we see in the words of our final song, Turn your Eyes upon Jesus.

Yes, there is emotion that we are expressing in the encouragement we are giving to one another to [Turn your eyes upon Jesus... Look full in His wonderful face...And the things of earth will grow strangely dim In the light of His glory and grace. But that emotional plea is based upon the truth that we know about Jesus from God's Word as we sing in verse 2, Turn your eyes to the hillside...Where justice and mercy embraced...There the Son of God gave His life for us...And our measureless debt was erased](#) My prayer is that all of you in here today can honestly sing this song fully understanding in your minds and believing in your spirit and heart that Jesus Christ died for you and his sacrifice completely paid the debt for your sin. Let's pray.